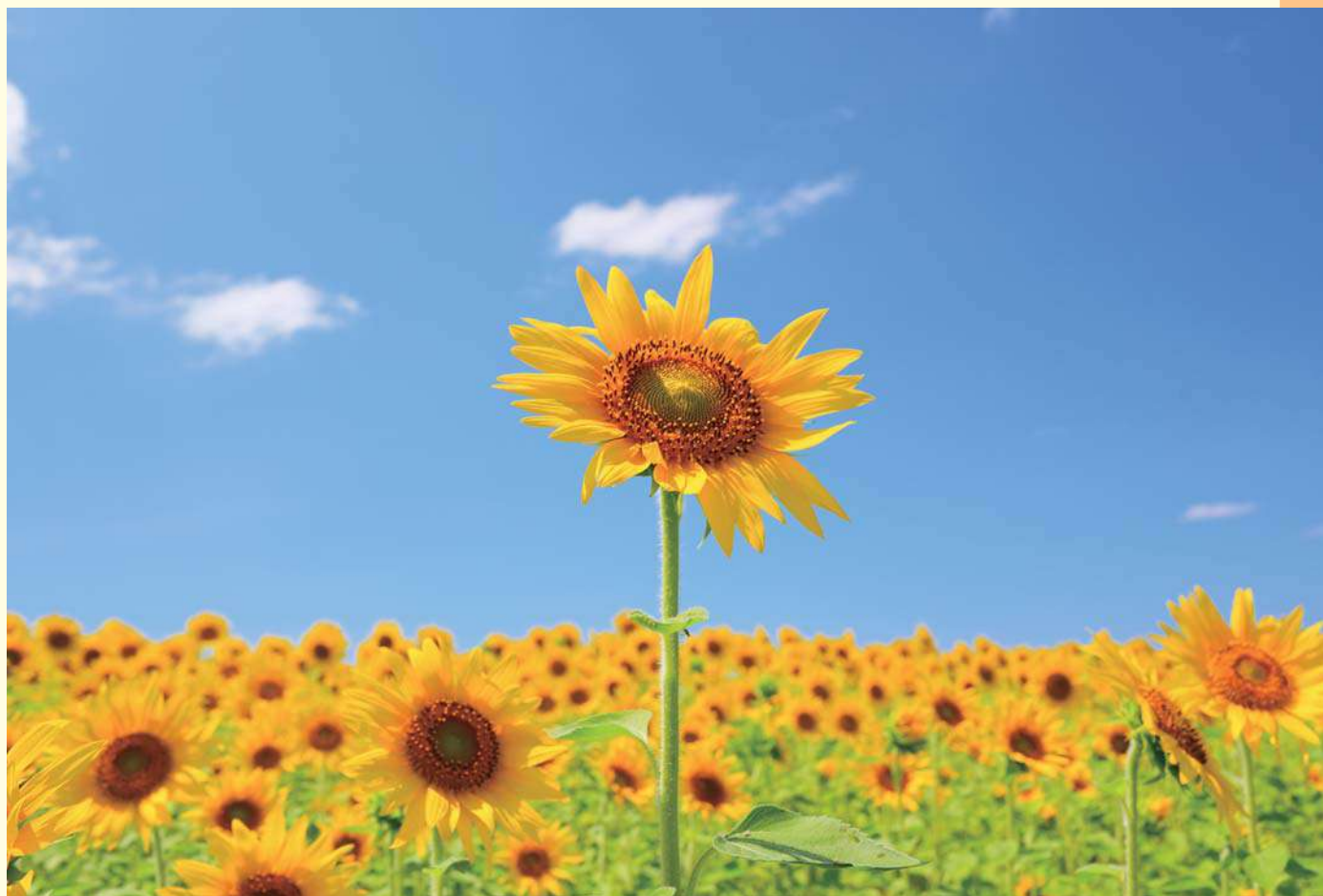


老健

vol.57

2025.8

にいいがた



小千谷：山本山高原（介護老人保健施設てらどまり職員提供）

- 1 ● 巻頭言
- 2～5 ● 特集：越南苑における生産性向上の取り組みとその効果
- 6 ● 介護老人保健施設における事故及び苦情トラブルに関するアンケートについて
- 7～8 ● 研修会報告
- 9～10 ● 協会だより
- 11～14 ● こんなことやってます!!～会員施設の取り組み～
- 15 ● みんなの広場

「老健にいいがた」が
リニューアル
しました!!



ROKEN くん

新潟県介護老人保健施設協会

介護老人保健施設における COVID-19

介護老人保健施設協会 理事
三面の里 戸澤 和 夫



COVID-19、いわゆる新型コロナウイルス感染症が5類感染症に分類されて2年が過ぎました。多くの国民が当初当たり前であったマスクをしている様子は都会のテレビ画面にもあまり見かけなくなりました。若い人ではあまり重症化しないことが多いので普通の感冒とあまり変わらないと思っている人も多いようです。しかし、5類に分類された後も何回か流行の波が見られました。その中で特に問題なのは私共介護老人保健施設を含めた高齢者施設でのクラスターです。高齢者は重症になる方も多く認められ、なおかつ私共のような施設ではそのまま施設内での療養を余儀なくされるケースがあります。つまり高齢者施設等でクラスターが発生している時には本来対応してくれる病院のベッドに空きがないことが多いのです。新潟県内の病院も経営健全化によるベッド数の削減が行われたため施設内での療養を余儀なくされるケースはさらに増える可能性があります。さらに施設内での療養で脱水になり、経口摂取が困難となれば点滴が必要となり、酸素飽和度が低下して呼吸困難となれば酸素投与が必要となりますが、いずれも介護老人保健施設の持ち出しになります。感染性廃棄物も莫大な量となり、その処理に多くの経費を要し、マスク、ガウン等にも同じことが言えるでしょう。実際に当施設でも併設の介護医療院を含めてこの2年間で数回のクラス

ターを経験しました。また、昨今は新型コロナウイルスだけではなくインフルエンザ、マイコプラズマ肺炎、百日咳などの流行も発生しています。今後のさらなる感染症の流行を鑑みて何らかの対応を国にお願いできないか、協会として要望できないものかと思っています。直接流行とは関係ありませんが、この4月から急性呼吸器感染症、すなわち一般の感冒様症状も5類感染症に位置付けられました。さらなる新しい感染症に備えてのサーベイランス強化の対策かと思われますが、それだけ未知の感染症の出現も近い将来にありうることでしょう。そのためにも介護老人保健施設の対応強化が必要です。現在のわが国では咳止め薬も時によっては、また施設によっては手に入らないこともあります。在宅までのリハビリ施設である当協会の施設は多くの利用者が急性期一般病院から移って来られます。高齢の利用者が多く、心臓の病気をお持ちの方もたくさんおられます。このところ単独の施設ではヘルペッサー、一般名ジルチアゼムが卸業者の出荷調整になり、手に入らず、代わりにどの薬を選択することにするかで頭を悩ませています。いろいろな要因があり一言では言えませんが、あまり余計なことを考えずに利用者のためになる対応がとれる介護老人保健施設であり続けられたらと思っています。

越南苑における生産性向上の取り組みとその効果

— ICT 導入および業務最適化を通じた構造的改革 —

介護老人保健施設 越南苑

介護士長 千喜良 由美子

支援相談室長 松 井 麻 子

越南苑は南魚沼市にあり、五日町病院に併設した施設です。介護老人保健施設の中でも比較的規模が大きく、200床を有しています。入所棟は4棟に分かれ一般棟2棟（102床）認知症専門棟2棟（98床）で、通所リハビリは定員60名、訪問リハビリも実施しております。2020年3月より超強化型を算定し現在も維持しております。稼働率は近年98%台を維持し、市内唯一の介護老人保健施設として在宅復帰に力をいれております。

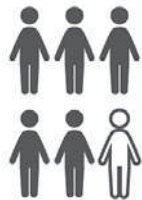
1. 施設課題

2021年当時、当施設において3年先を見据えた場合に人材確保が難しくなるであろう、また職員一人ひとりの生産性を上げていくことが最重要事項であると考え、現場の状況を踏まえ以下の課題を抽出した。

- ・夜間のご利用者見守りにおける夜勤職員の負担が大きい
- ・紙媒体による記録が主流であり、記載の長時間化や情報共有の遅延が生じている
- ・リネン交換や洗濯物管理等の周辺業務に時間を要し、直接介護業務への負担が生じている
- ・現場業務中の職員間の連携手段が乏しく、緊急対応における即時性が確保されていない

以上の課題を解決すべく ICT の導入と業務の外部委託の二軸から生産性の向上及び人的資源の軽減を目指した。

2. 生産性向上施策の概要

2-1 ベッドセンサー・見守りカメラ 	2-2 介護ソフト導入 	2-3 インカム導入 	2-4 夜勤体制再設定 
2-5 セットレンタル (衣類・日用品の活用) 	2-6 LINE の活用 	2-7 請け負い業務 ・リネン交換 ・衣類組み ・日用品運搬 ・パッド類の運搬 ・リネン関係運搬	

2-1 ベッドセンサー・見守りカメラの導入

認知症専門棟98床全てに導入した。マットレスの下に置くセンサーによってご利用者の睡眠・呼吸・離床状況を常時把握することが可能となった。また見守りカメラで、訪室せずにご利用者の状況確認が可能となり夜間巡回の頻度と負担を軽減できた。ご利用者自身も眠りの妨げが軽減され快眠に繋がった。

- ・歩数計による調査 夜勤者3名計約60,000歩→約30,000歩
- ・夜間帯の転倒・転落事故発生件数 年間23件→16件 7件減

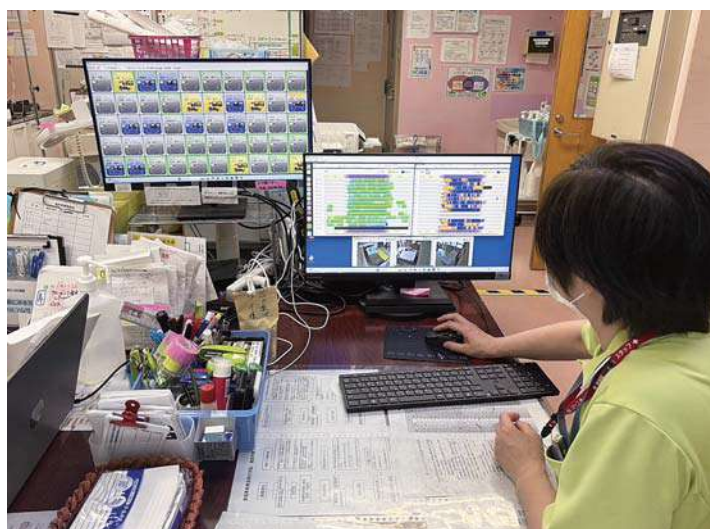
2-2 介護ソフトの全面活用

タブレット端末を用いた記録・共有により、業務報告の即時化と記載の一括記録が実現できた。

- ・日中の記録時間 1時間減
- ・夜間の記録時間 1時間30分減
- ・申し送り時間 朝15分 夕30分減



スマホに起床・離床の通知がきて映像の確認ができる



ベッドセンサー・見守りカメラ操作

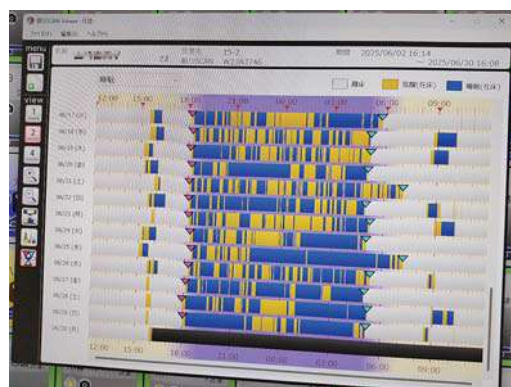
2-3 インカムの導入（認知症専門棟）

音声通信機器により職員間の連携がリアルタイム化し、情報伝達の迅速化と緊急時対応が向上した。ベッドセンサーと連動しており、ご利用者に動きがある際は通知があるため、スムーズに対応することができるようになった。夜勤では上下の入所棟でスタッフの協力をすぐに仰げるようになった。

2-4 夜勤体制の再設計

2-1・2-2・2-3導入により見守り支援と情報連携を強化でき、夜勤人員の見直しを実施した。無理のない人員配置で安全性と職員負担軽減の両立ができた。

- ・夜勤人員数 認知症専門棟2棟で6名→5名



眠り日誌で睡眠状況の確認

2-5 衣類・日用品レンタルの活用

衣類一式と日用品のセットレンタル導入により、洗濯・在庫管理等の業務を外部化した。

衣類管理・物品補充業務の削減時間 30分～1時間減（入所人数により変動）

ご利用者家族からも入所準備の際の手間がなく好評で、入所の即時化が可能になった。

2-6 LINEの活用

① 越南苑公式LINE：災害発生時の連絡や感染症発生等で面会制限を行う際に発信している。

② 各棟LINE：通話機能で面会に使用できる。又、普段の様子の報告やカンファレンス等の連絡に活用している。

尚、病状については電話で連絡している。それ以外、急がないものはLINEで伝えることで連絡がスムーズになり、また入所中の様子を写真や動画で伝えることで、状況把握にもつながり退所に向けてのイメージに繋がった。



物品補充も委託

2-7 リネン交換等の業務委託

定期的なりネン交換・回収や物品補充を外部委託することで、介護職員が直接介護業務のみに集中できる体制が構築できた。

3. 生産性向上推進体制加算への対応

生産性向上推進体制加算の要件を満たすため、以下の対応を行っている

- ・生産性向上推進委員会の設置を目標とする（目標を加算Ⅱ取得に設定）
- ・全職員への研修実施を予定し新技術への理解と運用スキル向上を図る研修を構築
- ・加算取得後の継続評価体制として委員会運用の流れを構築



4. インタビュー



介護士長
千喜良 由美子



介護主任
中林 久美子



生産性向上委員会
介護副主任 小林 成行



生産性向上委員会
委員長 中村 直樹

千喜良）業務改善の取り組みは全職種の協力があつてですが、工夫したところは？

中 林）スタッフに周知する事に苦慮している中、これらの取り組みは全て数年後を見据えての取り組みという事を対面での言葉で伝え説明した。ひたすら前向きに主任、副主任で検討した結果が現在に至る。生産性が向上し効率よく働けている。余暇時間でレクリエーションや散歩するなど利用者様に費やす時間が生まれた。苦労は無駄ではなかったと思っている。

小 林）当時はICT委員会を立ち上げ、パソコン操作等に長けているスタッフで構成した。

誰が見ても手順が分かるマニュアルを委員会独自で作成し段階的にスタッフに周知していった。又導入前から業務の中でどれだけ多く機器にスタッフが触れる時間を持てるか工夫した。

中 村）やりながら改善を繰り返すのも重要だが、委員会として開始前にどれだけスムーズにスタート出来るかの流れを構築する事が大切であるとの思いで、取り組んだ。



越南苑の散歩コース
八海山を望む風景

5. 終わりに

ICT導入過程では多くの課題に直面したが法人が環境を整えてくれたこと、また業務運用を「なぜ変えるのか」、「どう変えるのか」の目的共有とプロセスが職員を動かし、成功のカギになったと思われる。

ICTツールや業務委託は、単なる「効率化」ではなく、「ケアの質を守るための選択」であり「職員の働き方にも寄与する」ことが確認された。

持続可能な介護の実現には制度を追うだけではなく、「現場がどう変わるか」が問われている。人材不足や職員一人ひとりの生産性向上に対応するために、ICT・外部連携等の再構築は必要不可欠である。生産性向上推進体制加算を契機とし、今後も技術と人間の協働により改革を継続しながら、より質の高いケアを提供すると共に、職員満足度の高い施設を目指していく施設でありたい。

介護老人保健施設における事故及び苦情・トラブルに関するアンケートについて

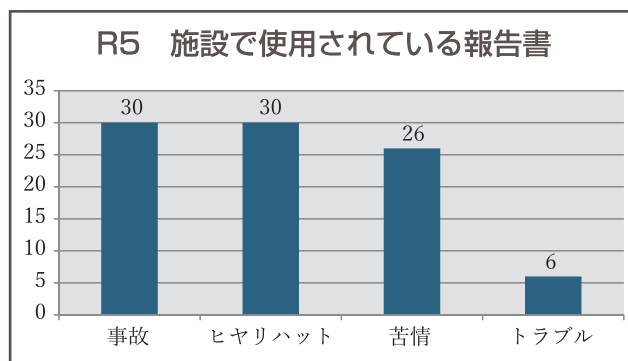
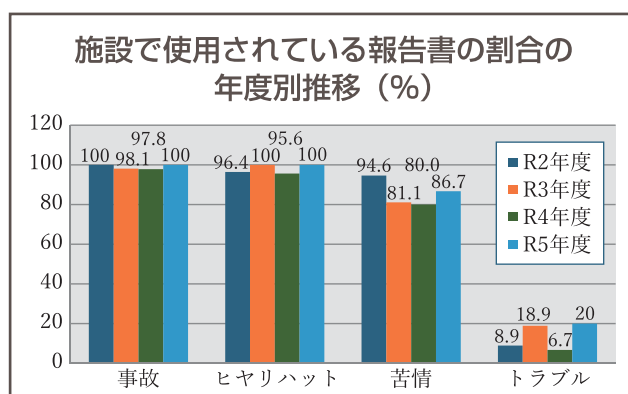
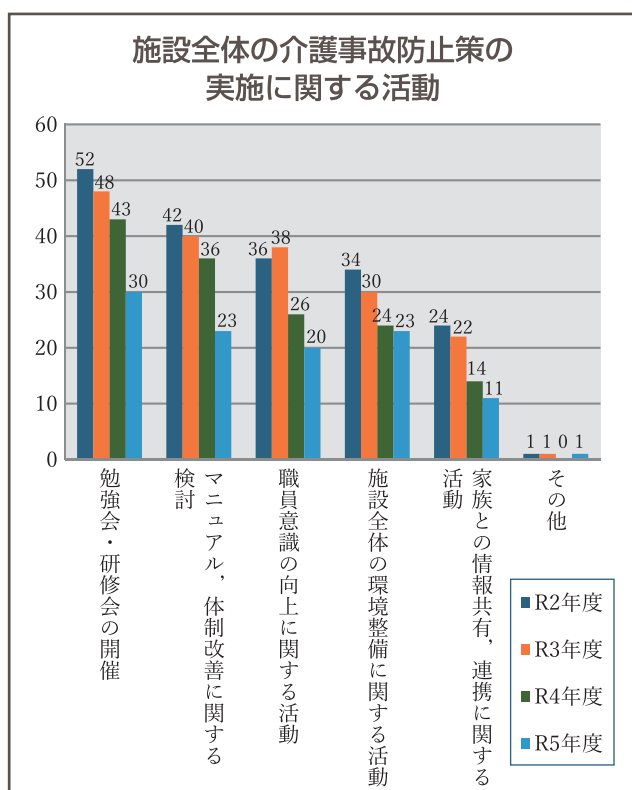
トラブル防止検討委員会

日頃より、標記におけるアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございます。

平成12年から毎年継続して実施しているアンケートになり、各施設で発生する介護事故や発生した介護事故が原因でトラブルに発展するケースもあります。事故やトラブルを未然に防ぐためにも、アンケート調査を実施しフィードバックすることで、情報の共有・リスク対策の指針となり各施設のレベルアップに繋がることを目的として実施しております。

昨年度実施した「令和5年度アンケート結果」の一部をご紹介します。また現在「令和6年度アンケート」の実施をしているところですが、今年度からアンケートの内容が変更となり、今までより回答しやすいのではないかと思います。締め切りが9月1日（月）となっておりますので、ぜひアンケートにご協力をよろしくお願いいたします。

【令和5年度アンケート結果抜粋】 回答施設 31施設



委員会で決定事項の職員への周知方法

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
会議等で職制を通じて周知	36	40	32	21
申し送りで周知	43	40	28	19
報告書・ファイルを定位置で設置し回覧	45	41	36	23
報告書・ファイルを回覧	29	26	21	17
連絡ノートの作成、閲覧、回覧	21	28	15	12
職員用掲示で周知	10	13	7	9
施設内 LAN を活用して周知	10	10	9	5
その他	1	3	3	2

※回答施設数 31施設

ノーリフティングケアマネジメント研修会

開催日：令和6年10月17日(木) 会場：長岡介護福祉専門学校あゆみ 参加施設：15施設 参加人数：37名

ノーリフティングケアマネジメント研修会は新潟県老健協会が毎年、力を入れて取り組んでいる研修会の1つであり、今回の研修会は現地集合研修で定員数をはるかに超える参加者の申込みがありました。また5年ぶりの実技研修も再開されました。参加者は事前に「ノーリフティングマネジメント（総論）」動画視聴・各施設での腰痛調査を実施した上で研修会に参加しました。

一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク 下元佳子氏からの事前動画は、ノーリフティングとは医療や福祉の現場から腰痛を無くす取り組みそのもの＝腰痛予防であり、実践すべきはリスクマネジメント（自己予防）である。また人材不足が深刻であるからこそ、安全に働ける環境づくりは必須であるという講義でした。

当日の研修会では実践紹介としてノーリフトケアに取り組み、導入を成功された介護老人保健施設でらどまり 理学療法士 金子純也氏より「リフト定着、リスク低減策実施を中心に」の講義がありました。2006年頃の介護ケアの様子を動画や写真で撮影したものから始まり、2009年～の福祉用具導入、知識技術の習得などと順にこれまでの経過とあゆみ、成果を分かりやすく紹介していただきました。

グループワークでは、参加施設が持参した腰痛調査、リスク調査結果、施設のノーリフティングケアの取り組み状況も踏まえた課題を報告し、ノーリフトケアを進めている施設となかなか進まない施設が一緒のグループで活発に討論していました。リフトのメリットや効果を知ることができたことは有意義な時間を過ごせたと参加者からの声が聞かれていました。

午後からは日本ノーリフト協会ケアコーディネーター 伊藤亜子氏より身体の使い方「ノーリフティングケアにおいて、とても大切な技術」実技講習がありました。実際にその場で身体を動かしながら不良姿勢とはどういう姿勢かを理解し、体重移動のコツや日頃から行う腰痛予防対策、身体の使い方理解度チェックを行いました。

福祉用具メーカーの方からは福祉用具を使用した基本動作介助、スライディング グローブ、ボード、シート、福祉用具を使ってどうやって腰を守るか、自分の身体の使い方を改めて学びました。

ノーリフティングケアマネジメント前期研修会は事前の下元先生の動画視聴・講義・グループワーク・実技を交えた研修会でノーリフトサポートメンバーや福祉用具メーカーの方々と共にオンラインでは体験できない非常に盛り沢山の研修会となりました。



研修会報告

ノーリフティングケア研修会

開催日：令和7年2月21日（金） 会場：新潟ユニゾンプラザ 参加施設：22施設 参加人数：57名

午前・午後の部に分けての講義と福祉用具の展示や施設での取り組みの事例展示が行われました。

午前の部では一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク 下元佳子氏よりノーリフティングケアの本質、取り組むにあたり何が大切なのか、介護業界の現状への正しい理解が必要であることを高知県や青森県でのエピソードを交え大変分かり易くご講義頂きました。

ノーリフティングとは介護テクニックやリフト等の福祉用具を使用するケアに限定した話ではなく、それらを活用した先にある医療・介護の現場から腰痛をなくす労働安全の取り組みでありリスクマネジメントの実践です。つまり目的は「安全に働ける職場」にすることで延いてはケアだけではなくすべての業務の見直しをして心身の負担を軽減させ働きやすい職場を追求していく事と言えます。その活動の普及・定着・継続の為に体制整備が必要となるのです。

入所者様、スタッフ共に安全で負担の少ないケアを提供できる体制を構築することにより腰痛予防や不良姿勢での作業がなくなり労働安全衛生を保つことができスタッフの離職率を下げる事に繋がるという事、そしてそのための意識改革がいかに重要なのかを学ぶことが出来ました。

午後の部では日本ノーリフト協会 ノーリフトケアコーディネーター 松田千恵子氏よりオーストラリア研修について写真や資料、現地での実体験を交え報告していただきました。報告の中で、ある施設ではノーリフトが浸透しておりその為の体制整備や教育方法が確立できていることに触れられ、改めてそれらの重要性を感じる事ができました。

福祉用具の展示では各メーカーのスタッフから使用方法の説明を聞き、実際に体験できるといった貴重な機会となりました。

施設での事例紙上展示発表では施設ごとの問題点を解消する取り組みや些細な工夫でも快適になるなど、なるほどと思える内容が多くありました。また、意見交換の場としても大変有意義なものとなりました。

参加者の声

- ◆ノーリフティングとは何かを学べた。技術的な研修だと思っていたが、期待以上だった。安全に働ける職場を目指して整備していきたい。
- ◆新たな介護用具が見れて、今後の参考になった。



令和6年度臨時総会 開催

令和6年度 新潟県介護老人保健施設協会臨時総会が書面で開催となりました。臨時総会時会員数84名のうち、書面表欠書並びに委任状のご提出をいただきました会員59名にて、定足数を満たしたことから本総会は成立いたしました。

第1号議案 令和7年度事業計画（案）について

第2号議案 令和7年度収支予算（案）について

それぞれ賛成多数により原案通り議決されました。

令和7年度通常総会 開催

令和7年度 新潟県介護老人保健施設協会通常総会が令和7年5月28日（水）ホテルイタリア軒にて開催されました。

冒頭、長谷川まこと会長よりあいさつがあり、その後事務局より総会時会員数81名のうち、出席会員7名（他に代理出席4名）、委任状提出会員64名で計71名との報告があり、定足数を満たしたことから本総会は成立しました。

議長として「三川しんあい園」宮尾益人先生、議事録署名人として「大江山園」久保隆雄様が選任され、令和6年度各委員会の事業報告・収支決算報告が事務局からありました。

第1号議案 令和6年度事業報告（案）について

第2号議案 令和6年度収支決算（案）について

それぞれ賛成多数により原案通り議決されました。

令和7年度 事業計画

1 会議

- （1）通常総会 規約第11条の規定に基づき、年1回開催する。
- （2）役員会 必要に応じて開催する。

2 委員会

- （1）事務長会委員会 実務的な問題を検討し、事務長会議・研修会等、その解決に向けて必要に応じた活動を行う。
- （2）学術研修委員会 新潟県介護老人保健施設大会及び介護サービスの質の向上に資する研修会を開催するための活動を行う。
- （3）広報委員会 機関誌「老健にいがた」の企画立案、編集及び発行を行うとともに、協会ホームページの運営に関する活動を行う。
- （4）トラブル防止検討委員会 事故・トラブルの未然防止を主目的とした活動を行う。

3 新潟県介護老人保健施設大会

令和7年度新潟県介護老人保健施設大会を開催する。

【開催日】令和7年10月24日（金）

【会場】新潟ユニゾンプラザ

4 施設運営アンケート調査の実施

介護報酬改定のアンケート等必要に応じて実施する。

5 研修事業

(1) 事務長会委員会

介護報酬改定の研修会や実務的な問題の解決に向けた研修会を企画運営し開催する。

(2) 学術研修委員会

新潟地区と中越地区でそれぞれ2回、介護サービスの質の向上に資する研修会を企画運営し開催する。

(3) トラブル防止検討委員会

事故・トラブルの未然防止に向けた活動の一環として、ひやり・はっと事故防止のアンケート調査・集計し、会員施設へ情報提供する。ひやり・はっと事故防止対応研修会を企画運営し開催する。

6 機関誌の発行

機関誌「老健にいがた」第57号・第58号を発行する。

第57号より広報誌をリニューアルする。

令和6年度 事務長会議

令和7年2月21日（金）ホテルイタリア軒にて55施設73名の方が参加され、集合形式による事務長会議が開催されました。

新潟県福祉保健部高齢福祉保健課：介護サービス係 主任 板垣氏より「介護老人保健施設の運営基準について」「電子申請届出システム（Gビズ）申請時の注意事項」、国保・福祉指導課 介護指導班 主任 荏戸氏より「運営指導等における指摘事項について」、障害福祉課 在宅支援係 銀山係長より「医療的ケア児者等の受入に係る医療型短期入所サービスの活用について」ご講義をして頂きました。

その後グループワークを行い、日頃抱えている業務課題等について事務長間の貴重な情報交換の場となり、短い時間ではありましたが久しぶりの対面での開催となりました。

また今年度は懇親会も開催され、事務長会議に引き続き情報交換や参加者同志の親睦を図ることが出来ました。



“食”で生活に楽しみを

あらまち 支援相談員 加藤 佳央

当施設では“食べること”が生活の楽しみとなるよう、食に関する様々なレクリエーションやイベントを企画しています。お彼岸にあわせてぼたもちを作ったり、地域の食堂から出前をとったり、普段の食事とは一味違った特別感で、ご利用者の表情にも笑顔が溢れています。

ぼたもち作りでは昔の感覚を思い出しながら器用に作業する方が多くいらっしゃいました。

作る・食べる楽しみとともに季節感も味わうことができ、これからも続けていきたいレクリエーションのひとつです。

出前のイベントでは地域の食堂に協力を依頼し、昼食時に自身で選んだ好きなメニューを注文しました。「何にしようかな。」と事前にメニュー表から選ぶところから嬉しそうな笑みがこぼれます。焼きそば、かつ丼、ラーメンなど思い思いの注文品が届くと「わあー！こんなにたくさん！」と歓声が上がりました。「懐かしいね。」「久しぶりで美味しいね。」と皆さん満足そうな様子で完食していました。

今後も“過ごしやすい雰囲気づくりをしていきます”“皆様の想いを大切にしていきます”というあらまち理念のもと、食はもちろん、様々な角度から入所生活がより充実したものになるような楽しみを提供していきます。



こころとからだにくつろぎのいっぷく

いっぷく2番館 看護師長 野地 利子

介護老人保健施設いっぷく2番館は2008年三条市帯織駅前に開設しました。

全室個室でご利用者のプライバシーに配慮し、入所100名・デイケア35名・ショートステイ(空所型)の受け入れをしています。

法人理念により、ご利用者が家庭で過ごされる時と可能な限り同じ雰囲気を心がけるよう制服を定めず(一部業務上必要な職種には貸与)Tシャツやジャージなど自由な服装で業務を行っております。

面会制限もあり、家族や友人との楽しい時間を自由に過ごせなくなったご利用者に少しでも季節を感じる楽しい時間を過ごしていただけるようレクリエーションやフロアに飾り付けを施すなど工夫しております。初詣気分となるように鳥居やおみくじを作り「大吉だ〜」「小吉だった…」と楽しんで頂いたり、書初めの展示を行ったり敬老の日やクリスマスなどではレクリエーションで気分転換していただけるよう試行錯誤しております。

先日は『春のパン祭り』と題したレクリエーションを行い、普段、施設の食事では味わえないパンやデザートを楽しんでいた



利用者の活力と職員の達成感

入舟 介護士 梶井 伸一郎

当施設利用者の中に当時肉屋を経営されていた方がおり、そこで販売されていたコロッケが地域でおいしいと評判の商品でした。作り方を伺うと「何十年も作ってきたから覚えている」とのことのでコロッケ作りに挑戦しました。

いざ調理が始まると当時の経験からか率先して作業に取り組む姿や真剣な表情が見られ、職員が介入する機会もほとんどありませんでした。



調理企画の経験がない職員が多いことや揚げ物のような熱源を使用するうえでリスクも危惧されましたが、多職種に協力を仰ぎ連携を取りあうことで実現することができました。



その結果、普段施設であまり見ることのない利用者の能力や生き活きとした表情を引き出せたことが嬉しかったです。何より自分たちで作ったコロッケをみんなで食し笑顔で「美味しいね、またやりたいね」と言う言葉が利用者、職員双方から聞かれ達成感を共有できました。これからも利用者に満足していただける取り組みを実践していきたいと思ひます。



利用者様の笑顔とともに歩む、大江山園の取り組み

大江山園 支援相談員 諸本 亜季

介護老人保健施設大江山園は、新潟市江南区大湊の田んぼや畑に囲まれた、とても自然豊かな環境の中にあります。

【愛＝やさしさ】を基本理念に置き、利用者様のウェルエイジングを応援する、入所棟174床＋短期入所療養介護2床、通所リハビリ23名定員の県内でも大きめの施設です。

春の大江山感謝祭や、地域の子供たちと一緒に楽しむ



大江山バザーを開催するなど、地域との繋がりにも力を入れています。

特に大江山園では、【ブログほぼ毎日更新!】を目標にし、利用者様の様子や食事風景、その時の表情なども大切にしています。これからも施設での様子や取り組みなどをご家族や遠くの親戚の方、お孫さんたちにも見て頂けるように発信に努めようと思ひます。

笑顔を引き出すレクリエーションを目指して!

くわの実の郷 介護福祉士 木村 佳子

くわの実の郷は、レクリエーション委員会があり毎月のレク行事に力を入れています。

ご利用者の皆様は、いつも心身ともにお元気とは限りません。体調が優れなかったり不安を感じていたり悲しかったり様々な気持ちを抱きながらも頑張って生活をされています。そのような中で少しでも気分が良い方向に変わり、嬉しい・楽しい気持ちになってくれたらと思いレクリエーション行事に取り組んでいます。

季節を感じたり、楽しい時間を体験していただけるよう殆どのご利用者様にご参加いただいています。特に賑やかな催しは夏祭りとお敬老会です。懐かしのゲームやお菓子、ボランティアの方による歌や踊りは、ご利用者様の日頃見られないお姿を拝見できます。「楽しかったわ」「面白かったよー」と笑顔輝くご利用者様を見ると、こちらも嬉しくなりレクリエーションの大切さややり

がいを感じます。また、職員一人ひとりが協力的で「盛り上げていこう!」と一丸となってくれる環境にも感謝しています。ご利用者様の笑顔・活気を引き出すレクリエーションがQOLの向上へと繋がっていけるよう、これからも挑戦していきたいと思います。



ご利用者の笑顔のために何ができるか

江風苑 介護福祉士 川島 祐太

コロナウイルスと付き合って5年が経過し、いよいよ今年度から法人全体の面会制限が解除されました!!

面会制限が解除されてからそんなに期間が経過してはいませんが、ご利用者の日々の表情に笑顔が増えたと感じています。ご家族の力は絶大です。職員では引き出すことのできない表情を見ることができ、嬉しく、職員もいい表情をしているなど感じます。ご家族からも「こうやって会えるようになって嬉しいです。」「こんなにいい顔を見れるなんて!」等、たくさんの嬉しいお言葉を頂戴しています。

嬉しいのと同時にコロナ禍で麻痺した感覚を取り戻すために、今一度『ご利用者の笑顔のために何ができるか』各職種で考えることを今年度の目標に掲げていきたいと思っています。今現在、当施設の取り組みとして決まっていることは、毎月の行事数をボランティアの方々の協力を得ながら増やしていくこと。外出・外泊は制限なく行けること。夏には5年ぶりの納涼祭開催です。沢山の笑顔が見られる機会が増えることを施設全体で楽しみにしているところです。



五頭の里スペシャルトレーニングで運動意欲UP!!

五頭の里 理学療法士 二宮 由香里



五頭の里通所リハビリでは、個別リハビリとは別に自主トレーニングとして「五頭スペシャルトレーニング」というものに取り組んでいただいています。ご利用様が自ら目標を立てそれに向けて意欲的に取り組めるよう当施設をご利用される方全員が安全に行える内容を設定しています。麻痺等で介助が必要な方もおられますが制作してから数年が経ち今ではこちらから

促さなくてもご利用様が率先して進めている姿がみられ運動習慣になっていると感じます。

ただ今後の課題としてはご利用時だけでなくご利用されていない日にご自宅でも行えるよう更なる運動習慣の確立を目指していきたいと思っています。



地域と調和して

汐彩の郷 支援相談員 本間 詮雄

当施設は、海沿いに面した北蒲原郡聖籠町の次第浜にある施設です。目の前には雄大な日本海を望む自然豊かな環境にあります。老健の入所定員が135名、併設する通所リハビリテーションの定員が34名となっています。

近くを流れる加治川沿いには約6,000本の桜並木があり、春には治水公園で桜まつりも開催され、毎年お花見を楽しむ人で賑わっています。施設としても桜の見頃には、ご利用様とお花見にお出かけして穏やかな環境の中で心身ともに癒される時間を提供しています。



また「地域の一員である施設」ということを念頭において日々運営させていただいております。地元地域の文化交流の一環として、次第浜日枝神社の大祭礼の際に奉納される「神楽舞」を施設内で披露していただき、ご利用様には大変好評をいただきました。

今後も地域交流を大切にして、専門スタッフによる充実した介護・リハビリサービスを通じて、ご利用様の健康と快適な生活をサポートし、地域とのつながりを大切にしながら、温かいコミュニティの中で安心して暮らせる施設を目標に努めていきたいと思っています。

みんなの広場

あらまち

正月の書初めや桜の塗り絵など季節に合わせた様々な作品を制作しています。「字を書くのは好きだよ」「何色で塗ったらいいかな」と話しながら、入所者の皆様が仕上げた作品を展示しています。



いっぷく2番館

通所ご利用者様と職員の共同作品「梅の花といちご畑」です。梅といちごは折り紙を使用し、梅の木の部分はちぎり絵にしました。折り紙やちぎり絵は、指先のリハビリにもなります。皆様、会話を楽しみながら制作を行っています。



入舟

季節に合わせた作品作りを利用者の方に作っていただいています。春から夏は屋上にプランターで野菜やイチゴを育てています。収穫時期には調理しみんなで食べています。



大江山園

通所リハビリでは季節に合わせた壁面作りを行っています。新潟まつりでは、万代橋から見える花火大会や民謡流しなどがありますが、「昔は家から花火が見えたよ」「民謡流しを踊ったわ」など昔話に花が咲き、皆さん作業されていました。



くわの実の郷

入所・通所リハビリの利用者様それぞれの共同作品です。毎回、季節に合わせたものを提案し、できることを分担しながら作っています。玄関ロビーやホール、通所内に飾り楽しんでいきます。



江風苑

入所のご利用者の皆さんと作成した春の作品です。それぞれが出来ることを行っていたら1つの作品を作成しています。季節の物を作成していただくことで昔話に花を咲かせていらっしゃる姿がみられています。



五頭の里

五頭の里では、入口脇に「五頭ギャラリー」があります。季節感のある作品や阿賀野市を感じられる作品を展示してあります。入所の利用者様と毎月楽しく作成しています。来所された方からも「すてきだね」と好評です。



汐彩の郷

デイケアのご利用者様が協力して作り上げた春の貼り絵です。季節ごとにさまざまな作品を作成しています。



編集後記

「老健にいがた」第57号を無事に発行する事ができました。

これもお忙しい中、原稿の依頼を快く承諾頂きました各施設様のおかげであります。厚く御礼申し上げます。今回の第57号より「老健にいがた」のデザインが一新し、お手元に届いていると思います。我々広報委員会も気持ちを新たに様々な情報をお届けしてまいります。昨年の冬は全国各地で大雪となりニュースにもなりましたが今は夏本番、暑い日が続いています。夏は花火大会やお祭りなどイベントが多くあります。熱中症対策そして感染対策をしっかりと行い楽しく過ごし夏を乗り切りましょう。
(広報委員一同)

新潟県介護老人保健施設協会広報誌

「老健にいがた」第57号

編集・発行 新潟県介護老人保健施設協会
広報委員会

〒959-4626 新潟県東蒲原郡阿賀町あが野南4324-2
介護老人保健施設 三川しんあい園内
TEL (0254) 99-5111
FAX (0254) 99-5121

URL <http://niigata-rouken.org/>

印刷 有限会社フジプリント